

# 初期 管理 1

## 3～4段開花までの栽培管理

3～4段花房の開花時期までは  
栄養生長期で、草勢が付きやすい。

### ① 灌水

- ・定植後、活着までは手灌水で行います。
- ・活着後は、生長点がしおれない限りは灌水を行いません。上水はできる限り少なくし、深層に根を張らせるようにします。
- ・生長点が傾くほどにしおれるようなら、しおれをとる程度の手灌水を行います（1株当たり0.3～0.5ℓ）。

### ② ホルモン処理

- ・トマトトーン100倍で3花開花した花房を処理し、確実に着果させます。
- ・日をあけて重複処理をすると、空洞果の発生を助長するので注意してください。

### ③ 芽かき

- ・適切な栄養生長をしていれば、わき芽は小さいうちに除去するのが基本です。芽かき作業が遅れている場合は、先に1段果房直下の大きな側枝を除去します。その後、ほかのわき芽をとるようにしてください。
- ・草勢が強い場合は、果房直下の側枝1本を残して、養水分を2本に分散させ、逃げ場をつくって置いて、草勢が落ち着いてから主枝1本にします。
- ・定植後に活着不良を起こしている場合は、すべての側枝除去を遅らせて根の発生を促します。

### ④ 摘果

- ・適切な生育を示している場合は、果実が500円玉～ゴルフボール大の時に3果にします。1～2段は1果房当たり3果、それ以降は4果が基本です。
- ・強勢の場合は、ゴルフボール～卵大になるまで待ってから3果にします。強勢であるからといって、4～5果着果させていると中段以降の樹ができません。
- ・弱勢の場合は、やや早めの500円玉大の時に摘果を行います。よほど弱い場合は1～2果にして、草勢の回復を図ってください。

### ⑤ 葉面散布

- ・草勢管理の微調整は葉面散布剤で行います。
- ・強勢の場合は、チッソ成分の含まれていない剤（ヨーゲンハイパー）で1週間に1～2度散布します。
- ・弱勢の場合は、チッソ成分入りの剤（ヨーゲン2号、ヨーゲンリッチ）で同様に散布します。よほど弱い場合は、動噴で薄めの液肥（400～500倍程度）を使い株ごとに施します。

# 桃太郎系 夏秋雨よけ トマトの 栽培管理

タキイ研究農場

畠中 誠

トマト栽培における最大のポイントは、3～4段開花時期の草勢管理です。特に追肥のタイミングを見誤ると、その後の収量や秀品率を落とす原因となります。また、追肥のタイミングを知るためには、正確な草勢判断が欠かせません。ここでは主にその方法をご紹介します。さらに産地では、ここ数年は地球温暖化による気温上昇で、高温障害が増加しています。その対策についても併せてご紹介します。

# 初期管理 2

## 3～4段開花期の 栄養生長から生殖生長に 切り替わる時の追肥

草勢の切り替わり時期の判断が重要である。

### ①追肥開始時期の見極め

- ・ 天気がよい朝 9～10時ごろの、生長点（先端から20cmほど）の状態を判断します。
- ・ 生長点付近の本葉が内側に巻き込まなくなり、主茎が細くなりかけている状態が、切り替わり時期です。
- ・ その時期が分からない場合は、やや多めの灌水（試し水）を施し、2日後に草勢が強くなってこなければ、急いで追肥を始める必要があります。

### ②追肥の量

- ・ 液肥の場合、チッソ成分量で10a当たり1kg、灌水量は1株当たり1ℓ程度が目安となります。
- ・ 固形肥料の場合、チッソ成分量で10a当たり2～3kgが目安です。

### ③茎の太さ

- ・ この時期なら、茎の直径は約1.5cm（人差し指程度）が適当です。
- ・ 下から上まで茎の太さが同じであるのが、理想的な状態です。



↑ ホルモン処理適期の花房。



↑ 摘果の適期。

### 生長点までの長さ

開花始めの花房から生長点までの距離も  
草勢判断の目安になる。

5～6cm以下

8～10cm



弱 勢



良 好

### 【初期順調に生育している状態】



↑ 2段開花時期。



↑ 3段開花時期。

## 高温対策

昨今の地球温暖化にともなう気温の上昇により、夏秋雨よけトマト産地では着果不良や裂果の問題が顕著化してきています。

### ①着果不良対策

高温期は灌水量を1株当たり1.5～2ℓに増やし、開花時期の水分不足が影響する、落花やがく枯れの発生を防ぎます。また、ハチ交配をしている場合でも、この時期はホルモン処理で確実に着果させます。

### ②裂果対策

幼果の緑熟期に果実内温度が高くなりすぎると、果実が白化して放射状裂果を引き起こします。灌水を増やすだけでなく、通路に水打ちをしてハウス内の湿度を保ちます。また、天窓を設置したり、サイドビニールをできるだけ上げたりして、ハウス内の気温を下げるようにします。7月中旬～8月中旬の約1カ月間は、カルシウム入りの塗布剤をビニールに吹きつけるか、「タキイホワイト」などの遮光資材で日よけをするとういでしょう。

### 高温の影響



落花



がく枯れ

開花時に水分が不足すると、急激な高温・乾燥に対応できず、落花やがく枯れが増える。

対策

土壤水分が不足しないよう、灌水量を調整！

### 裂果

#### 放射状裂果



高温時

果実がピンポン玉大のころからの肥大期に高温の影響を受け、果皮が硬化・ひび割れし、肥大にともなって起こる。

対策

- ・灌水を増やしハウス内の湿度を上げる！
- ・高温時には遮光する！

#### 輪状裂果



低温時

気温低下で果実表面が夜露をもち、日中乾燥することを繰り返すと硬化して裂果が増加する。

対策

- ・乾燥気味の管理を行う！
- ・ハウス内の保温に努める！

## 摘芯

生長点ではかなりの養水分が使われているので、必要なくなった生長点はできるだけ早めに摘芯しておきます。最終収穫段の花芽が確認できれば、その上の本葉2枚を残し、指先で摘み取るようにして摘芯します。11月中旬に終了する場合は、9月上旬には摘芯することができます。

## 中～後半の肥培管理

- ・中～後半の追肥は、各段の開花時期ごとに、チッソ成分で10a当たり1kgの肥料を施すのが基本です。日数でいうと、気温の上昇にともないその間隔は短くなりますが、およそ10日～2週間間隔です。
- ・草勢を判断する際は、前述した生長点の状態と併せて、上位葉の葉面の凹凸や裏返り、葉柄のねじれも判断材料とし、肥培管理を行います。

### 追肥のタイミング

草勢は、生長点から約20cmまでの状態で判断する。



過繁茂  
追肥を遅らせる。  
減らす。

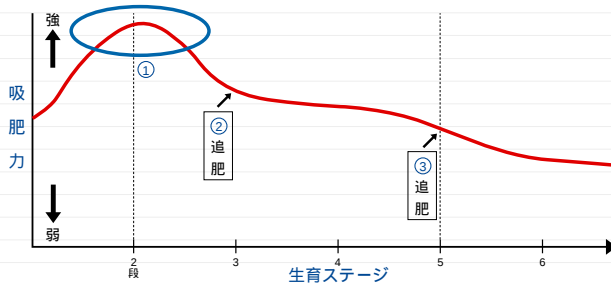


弱勢  
速効性の液肥・葉面散布などで、積極的に追いつめる。



正常  
これまで通りの追肥を継続する。

### 草勢管理



定植して2～3段開花までは、吸肥力が一番強い時期なので、定植後は灌水を控えめにする。

夏秋栽培では3段、冬春栽培なら4段開花期ごろに吸肥力が低下してくるので、チッソ成分で10a当たり3kgを追肥する。

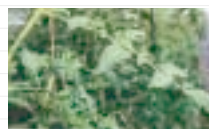
夏秋栽培では5段、冬春栽培なら6段開花期に再度草勢が弱くなるので、2回目の追肥をする。

### 葉色などでの草勢判断

#### 弱勢



生育悪い葉

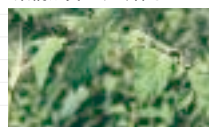


葉柄が真っすぐ伸びている

#### 正常



生育適正葉

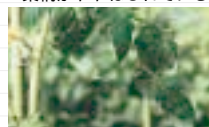


葉柄がややねじれている

#### 過繁茂



生育過繁茂葉



葉柄が大きくねじれている